

鶴田町議会教育民生常任委員会 視察研修報告

視察先 福岡県水巻町、山口県山陽小野田市（山口県は台風の影響により中止）
日程 平成30年10月1日（月）～3日（水）
参加者 小関優、蒔苗愛子、一戸豊、三浦勉、北谷正則、神秀次郎

【教育民生常任委員会】町民生活課、健康保険課および教育委員会の所管に属する事項ならびに総務課の所管する事項のうち消防、水防および防災に関する事項について調査や議案、陳情などの審査を行う町議会常設の委員会

■視察の目的

町民を主役とした町づくり、総合計画を通じた人材育成を学ぶため、福岡県水巻町を視察しました。



△水巻町での視察研修のようす

■町の将来のビジョン、新総合計画が出来るまでの流れ

①問題点の整理

- ・総合計画について、ほとんどの町民が知らない。
- ・役場職員でさえ、自分の仕事と関係ある部分だけを読み、あとは書類の中に埋もれている。
- ・そもそも、平成23年の地方自治法改正で策定義務がなくなつたため、作る必要があるのか。
- ・従来の総合計画を作るなら、その予算を福祉など別なものに使えば良いのではないか。
- ②方向性の決定
- ・町長「水巻町を「いいね」と言われる町にしたい」
- ・副町長「子どもたちに分かりやすくしたい」
- ・教育長「みんなで育てよう水巻のこども」というビジョンを反映させたい」
- ③実現するために
- ・町民の生の声を反映させたいため、ほとんどの行政で行って

いる無作為抽出の住民アンケートをやめる。

- ・それに代わるものとして、小学生のライブインタビュー、PTA・区長・地元企業との座談会などを実施し、問いと対話を重ね、町民のつぶやきや生の声を集める。
- ・審議会の役割を、役場で作つたものを承認してもらう場とした。
- ・持ち寄つた情報を基に委員による対話を行い、委員の考えが計画に反映されるようにする。
- ④作成するにあたり、心掛けた四つの柱
- ・みんなに読んでいただけるものにする。
- ・ビジョンを問いに変える。
- ・つぶやきを形にする。
- ・自ら考える人を増やす。
- ⑤なぜ絵本になったのか
- ・子どもを含め、多くの町民の手に取ってほしい。
- ⑥作って終わりではなく、活用されるために

・思いを書き込み、誰かと対話し、未来への問いを一緒に考えるために、計画書の所々に余白や記入欄を作った。

・この計画書は完成版ではなく、この計画書を土台にあちこちで意見を出して考え、共有し取り組んでいくことで、完成に近づけるようにした。

■訪問して感じたこと

「なぜ、総合計画を作る必要があるのか」という、根本的な問いに向き合い、「作らない」という判断も含め、真剣に議論されて生まれた総合計画だと感じた。また、絵本というアウトプットは、最初から計画されていたものではなく、「誰に届けたいか、どのように活用するのか」を、ただひたすらに考えた結果である。絵本で作成する最終判断を町長に伺ったときに、「チャレンジだろ。だめだったら元に戻せばいい」という、責任感のある言葉にも感銘を受けた。

この総合計画作成を通じ、関わった町民と役場職員のレベルは格段に上がったと思われる。また、町の顔でもある役場職員の対応にも好感を持った。そのため、水巻町そのものにも好感を持ち、心地よい訪問となった。

■最後に

10年後の未来が予測されにくくなっている現在。町民自らが考え、自分事として感じ、一緒に考えながら進んで行くことが、遠回りではあるが、町が発展するための近道であると思われる。ぜひそのような町になってほしいと願う。

△①②③水巻町の総合計画の一部

